

写真番号	タイトル	画像	説明文
D001	コンスタンサ移住地		<p>ドミニカの軽井沢と呼ばれるコンスタンサは標高1200mの盆地である。現在の入植戸数は21家族でトマト、キャベツ、チシャ、ピーマン、じゃがいも等の野菜類を栽培している。山には松の木が生えており、外国にいるような気がしない。</p>
D002	農場		<p>コンスタンサ移住地は、ハポネサ(日本人)地区とサビーナ地区に分かれている。日本人が移住するまでは草ぼうぼうの原野であったが、今では写真のように豊かな生産の場と化している。遠くに見えるのはコンスタンサの町である。</p>
D003	ハラバコア移住地		<p>ハラバコア移住地には約20家族の移住者が入植している。米、野菜作りが主体で相当な成績をあげている。写真中央は共同利用のトラクターが農場へ出発するところ。</p>
D004	日本製ハンド・トラクター		<p>日本からもって行ったハンド・トラクター。現地人の人夫を後にのせて畠から我が家に戻るところ。ハラバコア移住地は標高700m。仕事を終えた夕方の空気は肌に心地良い。</p>
D005	灌漑水路		<p>コロニア(入植地)の水管理人と話をする事業団職員。これらの灌漑水路は全部独裁者トルヒーリョ大統領の時代につくられたものであるが、この水路の水は今もコロニアの生産を高めて満々と流れつづけている。</p>
D006	マニ(落花生)出荷		<p>ドミニカではマニ油を非常によくつかう。肉を煮るにも、サラダを酢油でたべるにも、飯を炊くにもマニ油は欠かせない。マニ油を入れて炊いた飯は一粒一粒が光っている。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
D007	トマトの出荷		<p>ハラバコア移住地では大量のトマトが生産される。日本人が大量のトマトをつくるようになってからトマトは庶民のものになった。サント・ドミンゴの市場には「まるは」のマークがのし歩いている。</p>
D008	キャベツの出荷		<p>トマトの支柱にする竹も豊富にある。トマトと共にキャベツの出荷も盛んである。品種はデンマークのコペンハーゲンの「雪白結球キャベツ」現地人がウノ(1)、ドス(2)、トレス(3)、とつみ込んでいる。こういう仕事をさせると仲々よく働くようだ。現地人をうまく使うのが経営のポイントである。</p>
D009	登校		<p>ドミニカの義務教育は中学3年まで、日本と同じである。授業は全部スペイン語。教師は仲々厳格で行儀が悪い子はムチでぶたれることもある。日本人の子弟は成績がよく、とくに現地人に比べて算数が良くてできる。</p>
D010	営農相談		<p>巡回相談途中、北海道出身の犬山さん宅を訪問した事業団職員。「思ったほど残らないが、北海道の開拓地のことを思えば楽なもんです」とセルベッサ(ビール)を飲みながら語る犬山さん夫妻の顔は明るい。</p>
D011	宴会		<p>ハラバコア移住地の日本人は年に何回か寄り合いが行なわれる。クロちゃんのペオン(人夫)もチャッカリ席について一杯やっている。アルコールが進むにつれてお国自慢の民謡が出はじめる。若い者達の会合にはメレンゲやサンバ、マンボなどのリズムが流れる。</p>